

助成番号 第22001号

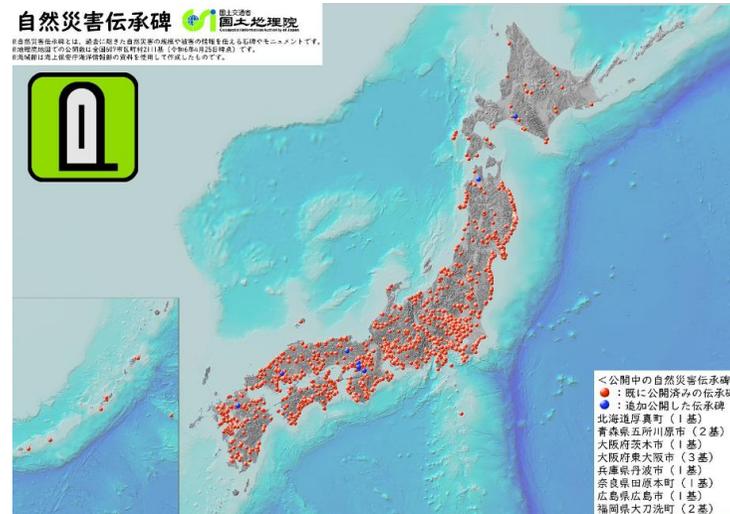
関東地方の周年行事から学ぶ 負の記憶を継承する要因に関する研究

千葉科学大学
藤本 一雄

1. はじめに

「もの」による災害伝承

- 災害の記憶を長年にわたって伝承することは重要(佐藤,2016など)。一方で、**災害の記憶を長期にわたり継承することは困難**との指摘(藤森・矢守,2012 ; 首藤,2008など)。
- 災害の記憶を長期にわたり伝承する方法の一つに「**石碑**」がある。東日本大震災、平成30年7月豪雨の教訓を受けて「**自然災害伝承碑**」の地図記号の制定。
- 一方、「石碑は耐久性があることから伝承の有力な媒体であるものの、地域の人が管理しないとその存在すら忘れ去られ、放置されることがあり得る」(高橋・緒續,2014) ⇒ 災害の記憶を「**もの**」だけで伝承することは十分ではない？



「行事」による災害伝承

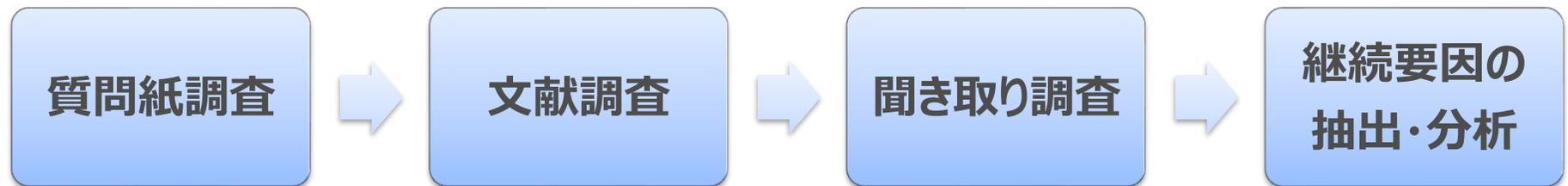
- 自然災害・感染症流行に関する負の記憶が、100年以上にわたり「**行事**」として伝承され続けている事例がある。
 - ✓ 長崎県長崎市山川河内地区：1860年の土砂災害で33名の犠牲者が出たことをきっかけとして、150年以上にわたり「念仏講まんじゅう配り」が月命日(毎月14日)に実施。
 - ✓ 和歌山県広川町：1854年安政南海地震の津波犠牲者の供養と、広村堤防を築いた濱口梧陵らの偉業や恩徳を偲ぶため、津波から約50年目の1903年に始まった祭り。
 - ✓ 愛知県・田原警察署：1886年に流行したコレラの防疫活動中に殉職した警察官を慰霊する行事を、2020年に133回忌として執り行っている。

【先行研究】

- 自然災害・感染症流行を起源とする周年行事については、行事ごとに紹介している事例はあるものの、網羅的に調査した事例は見当たらない。

本研究の目的・方法

- 自然災害・感染症流行を起源として始まった行事のうち**100年以上**にわたり継続して実施されている**周年行事**を対象として、質問紙調査、文献調査、聞き取り調査を行い、これらの結果を踏まえて、周年行事が長年にわたり継承され続けてきた要因を明らかにすることを目的とする。



2. 質問紙調査の方法・結果

質問紙調査の方法・結果

【調査対象】

関東地方、東北地方、中部地方の市区町村教育委員会の文化財保護担当部署(内訳 関東：316団体、東北：227団体、中部：314団体)

⇒ 合計：857団体

【質問内容】

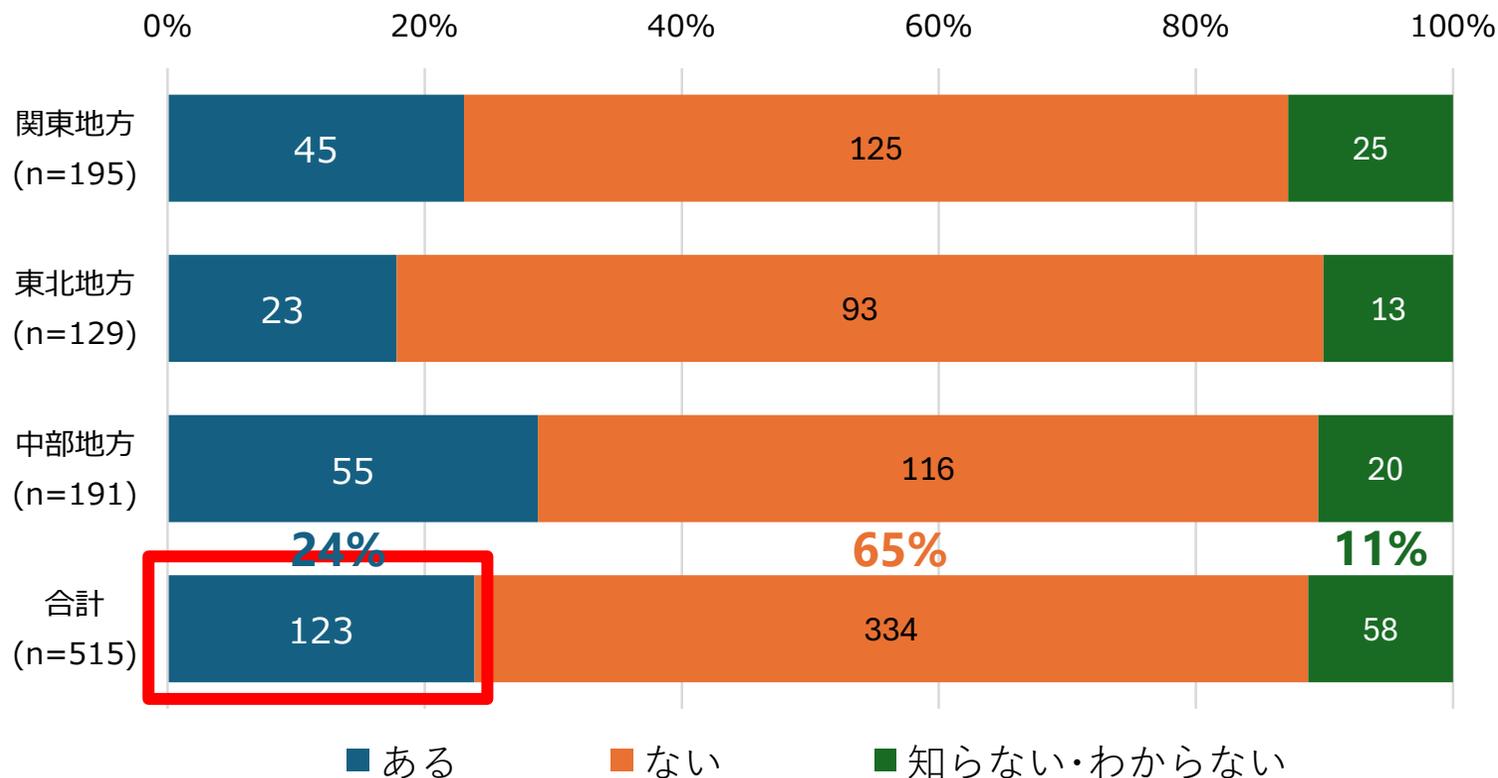
○ 100年以上にわたり継続している周年行事の有・無

○ 「有」の回答の場合は、その周年行事の名称、起源となった災害・疫病名、発生年、周年行事について記載されている文献・資料名

【回収率】

質問紙を2023年3月下旬に郵送し、回答期限の2023年5月24日までに、515団体からの回答が得られた(回収率：60.1%)。

質問紙調査の結果



地方別の回答割合

⇒ 100年以上の周年行事が「ある」の回答は123自治体(24%)。

3. 文献調査の方法・結果

文献複写、取り寄せ

- 質問紙に**文献・資料名**が記入されていた周年行事について、国立国会図書館、都道府県・市町村の公立図書館を通じて**文献複写**による資料の取り寄せを行った。
- 資料に記載されている**周年行事の詳細情報**に基づいて分類した結果、以下の通りとなった。
 - ✓ **自然災害を起源とする行事**(継続：100年以上)
 - ✓ **感染症流行を起源とする行事**(継続：100年以上)
 - ✓ 100年近く継続している行事
 - ✓ 発生年が不明であるが継続している行事
 - ✓ 途絶してしまった行事
 - ✓ 途絶した後に再開した行事
 - ✓ 最近になって始められた行事

自然災害を起源とする行事(継続：100年以上)

- **富山県立山町**：**1858年**飛越**地震**で生じた堰止湖が、余震により二度決壊した。二度の洪水で旧大森村まで移動した巨石(西大森の大転石)により濁流の流れが変わり、西大森は洪水の被害を免れた。これに感謝するため「水神様の祭り」が毎年4月25日に行われている。
- **千葉県銚子市**：「式年銚子大神幸祭」は、**1102年**、銚子・高見浦の**津波**を鎮めるため、堀河天皇が勅命を下し、銚子への御神幸祭が1102年に初めて斎行された。この神幸祭は、東大社(東庄町)、雷神社(旭市)、豊玉姫神社(香取市)の三社の神輿が銚子に渡御するものであり、第1～9回までは毎年行われたが、第10回からは20年ごとに行われている。近年では、2010年4月に第54回神幸祭が行われた。
- **千葉県長生村**：**1703年**元禄地震の**津波**により一松郷で700人以上の犠牲者が出た。その霊を弔うため、本興寺の境内には、村内の犠牲者全員の法名を記した大位牌が安置されている。また、1952年に**250回忌**の供養塔が、2002年には**300回忌**の供養塔がそれぞれ建立された。
- **静岡県伊東市** 供養祭が毎年 **地震、津波、洪水、噴火、火災を起源する行事** しており、その
- **千葉県船橋市**：**1746年**の**津波**(高潮?)で溺死した漁師・住民を供養するため釈迦如来坐像(石像)が建立された。1824年、漁場をめぐる争いから漁民2名が命を落とした。これら犠牲者の霊を弔うため、1825年から「大仏追善供養」が毎年2月28日に行われるようになった。
- **福井県勝山市**：**1726年**の女神川の**氾濫**による犠牲者(猪野口村で53戸のうち48戸が流出)を供養するため、毎年4月に「女神川水害永代講」を行っている。1825年には**百回忌**の供養碑が、1925年には**二百回忌**の供養碑がそれぞれ建立された。近々、**三百回忌**(2025年)の供養碑を建立する計画もある。
- **静岡県川根本町**：「平谷の流したい(焚)」(毎年7月14日)は、青竹と麦わらを束ねた上に松明を立てて大井川へ流す行事である。**1828年**の**大洪水**が生じた際、疫病の犠牲者の霊を慰めるため、愛知県の津島神社に流灯をささげたのが始まりとされる。
- **富山県滑川市**：本江(郷側左岸)の集落は**洪水**被害を受けやすく、1835年の郷川の氾濫によって耕地が荒廃した。その後、宝田宗兵衛の尽力により、集落48軒が転居できたことに感謝するための「転地講」(毎年7月27日)が**1842年**から始められた。
- **群馬県嬭恋村**：**1783年**浅間山**噴火**の土石なだれにより、鎌原村民570名のうち477名が犠牲となったことをきっかけとして、鎌原地区で供養祭が毎年8月5日に行われている。最近では、2023年に「浅間押し**240周年**追悼式」が行われている。 など

感染症流行を起源とする行事(継続：100年以上)

- **愛知県田原市**：**1886年**に流行した**コレラ**の防疫活動の際、愛知県警豊橋署田原分署の**江崎邦助巡査**(25歳)がコレラに感染し6月23日に殉職し、その看病にあっていた**妻じう**(19歳)も感染し6月26日に亡くなった。田原警察署による慰霊墓参(毎年6月23日)、江崎巡査夫妻偉績顕彰会(事務局：田原市社会福祉協議会)による追悼法要、田原市立小学校(児童)による江崎巡査夫妻の功績を題材にした演劇の上演が行われている。
- **千葉県鴨川市**：**1877年**に**コレラ**が流行した際、**医師・沼野玄昌**が防疫のために患者を隔離し、患者の家の井戸を石灰で消毒していたのを、患者の生き胆を抜き、井戸に毒を入れているという噂が流れ、それを妄信した住民らによって玄昌は殺害された。1978年、鴨川保健所や長狭地域の医師有志によって、烈医沼野玄昌先生弔魂碑が建立されるとともに、烈医沼野玄昌先生**百年忌**記念行事が執り行われた。
- **埼玉県ときがわ町**：天明の大飢饉(**1782～1788年**)により**疫病**が流行し、村内の戸数が激減した。悪疫退散を祈念して、信州で行われていた送神祭を取り入れて「大野の送神祭」が始まったといわれている。当初は4月8日に行われていたが、現在は4月の第二日曜日に行われている。
- **岐阜県瑞浪市**：文久年間(**1861～1864年**)、奥名地区に原因不明の高熱が出る**疫病**が流行し、死者が絶えなかったことから「奥名大般若会」が毎年1月28日に行われるようになった。2011年の時点で148回の継続が確認されている。
- **山形県酒田市**：**1878年**の前2～3年の間、**天然痘**の流行、**大風**、**大洪水**、**ウンカ**の大発生が続き、これらの災禍で意気消沈した人びとを奮い起こすために「木川神楽」が始まった。
- **山梨県富士河口湖町**：**1920年頃**、長浜で**腸チフス**や**赤痢**が流行したため、易者に見立てを願ったところ無縁仏の祟りに起因すると出たことから、供養塔を建立するとともに、東光寺の住職による「ホウエンサマ」の法要を毎年営むところとなった。

※**発生年が** **防疫活動中に亡くなった者を慰霊するための行事** **悪疫退散を祈願するために始められた行事** (祭)など、
天王祭(岐阜県神) (虫)など、
送り(岩手県八幡平市「横間虫追い祭り」、愛知県阿久比町「知多の虫供養行事」、石川県野々市市など)、獅子舞(山形県鶴岡市、埼玉県和光市、岐阜県瑞浪市など)、神楽(埼玉県春日部市、山形県酒田市、静岡県河津町など)、など

4. 聞き取り調査の方法・結果

聞き取り調査の対象

- 自然災害・感染症流行の**発生年が明らかな行事**のうち、**概ね100年以上**にわたり続けられている**11地域**の周年行事を対象として聞き取り調査を行った。
 1. **千葉県長生村**：元禄関東地震の津波犠牲者の慰霊行事
 2. **福井県勝山市猪野口地区**：「女神川水害永代講」
 3. **静岡県伊東市玖須美区**：元禄・大正関東地震の津波犠牲者の供養祭
 4. **富山県立山町西大森地区**：「水神様の祭り」
 5. **岐阜県中津川市**：四ツ目川災害に関する行事
 6. **千葉県船橋市**：「大仏追善供養」
 7. **群馬県嬬恋村**：天明浅間山噴火の犠牲者の供養祭
 8. **千葉県銚子市**：「式年銚子大神幸祭」
 9. **愛知県田原市**：江崎邦助巡查夫妻の慰霊行事
 10. **富山県滑川市本江地区**：「転地講」
 11. **静岡県川根本町平谷地区**：「平谷の流し焚」

※**石川県輪島市**の「波除け地藏様祭り」については、2023年11月に輪島市教育委員会に電話連絡し、2024年に聞き取り調査を行う予定が、「**令和6年能登半島地震**」の発生により断念。**千葉県鴨川市**の「沼野玄昌」に関する聞き取り調査は、**関係者を見つけられず**断念。

聞き取り調査の項目

- 関係者に電話連絡等をして聞き取り調査への協力を依頼・承諾を得た後、事前に質問項目を送付しておき、現地訪問時には半構造化インタビューによる聞き取り調査を行った。

質問項目(事前)

【きっかけ】周年行事は、いつ頃、何がきっかけで始まりましたか？

【実施主体】周年行事の実施主体(中心的な役割を担う)は誰ですか？

【参加者】周年行事の参加者はどのような人・何人くらいですか？

【費用負担】周年行事を実施するための費用は誰が負担するのですか？

【中断】過去に周年行事が途絶えそうになった(中断した)ことはありますか？

【継続理由】周年行事が長く続いている理由はどこにあると思いますか？

【次回予定】次回(来年度)の周年行事を実施する予定・計画はありますか？

【困っていること】今後の行事の実施に関して、困っていること・気がかりなことはありますか？

1.千葉県長生村：元禄関東地震の津波犠牲者の慰霊行事

- 行事の概要：**1703年**元禄関東地震の**津波**による犠牲者を供養するための石塔が、250回忌及び300回忌にあわせて建立されている。
- 日時：2023年8月22日、場所：本興寺、対象：副住職

【きっかけ】250回忌の供養塔・法要などの詳細は不明。300回忌は、本興寺から檀家に発信をして開催することになった。その他の地元のお寺も呼び、法要を行った。また、大網白里町郷土史研究会会長による講演も行った。

【継続理由】津波による犠牲者の法名が記された**大位牌**が本堂内(建物内)にあり、**追善供養を毎日**しているため、津波災害のことを忘れることがない。お寺以外の場所や屋外に供養碑があった場合は、忘れ去られたかもしれない。大位牌の製作年は不明。

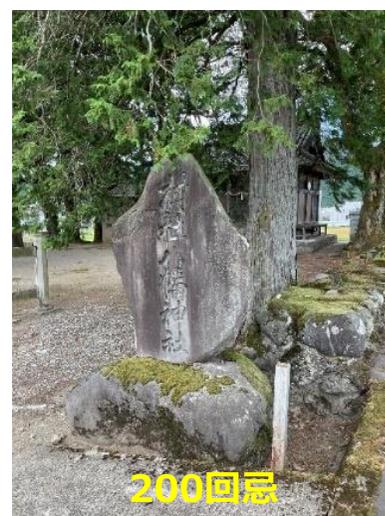


2.福井県勝山市猪野口地区：「女神川水害永代講」

- 行事の概要：1726年の女神川の**氾濫**による犠牲者(猪野口村で53戸のうち48戸が流出)を供養するため、毎年4月に「女神川水害永代講」を行っている。
- 日時：2023年9月11日、場所：勝山市教育会館、対象：市史編纂室職員

【継続理由】 1.村人の信仰心が厚い 2.仏事・法務を主導する導場主(得度を済ませ経験豊か)があった 3.庄屋(区長)のリーダーシップ、4.言い伝えだけでなく供養碑があったこと(村人が住んでいる山から田畑に向かう道筋に供養碑があり、毎日拝みながら歩いたと思われる。掛軸が導場にお祀りしてあることも意義あると思う)。

【次回予定】 三百回忌の年忌法要については、前・区長が平成17年に退任するときの懸案事項として次期区長に引き継いでいる。



3. 静岡県伊東市玖須美区：元禄・大正関東地震の津波犠牲者の供養祭

- 行事の概要：佛現寺の境内には、**1703年**元禄地震、**1923年**関東大震災の**津波**犠牲者の供養碑が建立されており、その供養祭が毎年、玖須美区の関係者らが集まり、供養碑前で営まれる。
 - 日時：2023年9月12日、場所：佛現寺、対象：貫主、住職、郷土史家
- 【費用負担】「**財産区**」が実施主体のため予算に困ることはない。
- 【継続理由】**信仰心**が厚い。
- 【次回予定】区長・財産区議会議長が交替する際、次期の長に申し送りをするとともに、佛現寺にも挨拶に来る。供養祭は**しばらく続くと思う**。規模は小さくなるかもしれないが、寺があるかぎり続ける。



4.富山県立山町西大森地区：「水神様の祭り」

- 行事の概要：**1858年**飛越地震で生じた堰止湖が、余震により二度決壊した。二度の洪水で旧大森村まで移動した巨石により濁流の流れが変わり、西大森は洪水の被害を免れた。これに感謝するため「水神様の祭り」が毎年4月25日に行われている。
- 日時：2023年11月7日、場所：立山町役場、対象：教育課職員

【継続理由】西大森地区は、昔から氾濫する常願寺川に近い集落ということもあり、洪水などの災害に対する注意意識が高い人々が多く住んでいるため。祭りに参加した子どもたちには、洪水の被害や大転石が守ってくれたことを話して、継承している。

【困っていること】次世代への継承において、人口減少と少子高齢化を懸念している。金銭面で困っていることはない。



5. 岐阜県中津川市：四ツ目川災害に関する行事

- 行事の概要：1932年8月26日の**土石流**災害「四ツ目川災害」により旧・中津町が大きな被害を受けた。現在まで毎年8月26日を市防災の日(現在は治山・治水の日)として、神事(祈年祭)、記念行事(砂防講演会)を行っている。
 - 日時：2023年11月10日、場所：中津川市役所、対象：維持事業室職員2名
- 【継続理由】災対協の**熱意**(前・会長は、災対協の発足10年後からその後30年にわたり会長を務め、災対協の活動に多大な尽力を果たした)。また、その活動が認められ、協力金として**様々な団体から支援**いただいているから。
- 【困っていること】災害から90年以上が経過し、**災害そのものを知る人の減少**。行事の規模が大きくなってきたため、災対協を継続的に運営していくための人材の確保。



6.千葉県船橋市：「大仏追善供養」

- 行事の概要：1746年の津波(高潮?)で溺死した漁師・住民を供養するため釈迦如来坐像(石像)が建立。1824年、漁場をめぐる争いから漁民2名が命を落とした。これら犠牲者の霊を弔うため、1825年から「大仏追善供養」が毎年2月28日に行われている。
 - 日時：2023年11月17日、場所：船橋市役所、対象：文化課職員2名
- 【参加者】参加者は約50名で、湊町小学校(3～4年生)、船橋小学校が参加することもある。
- 【継続理由】生業としての漁業の「海」における災害での祖先にあたる犠牲者へ対する弔いの意が関係者に強くあるため漁協という組織が主催しているため 漁協が漁業を続けているため(近隣の浦安・千葉市などは漁業を中止)。大仏が通りの方向を向いており、参道の入口近くに設置されているため、目に触れやすい。



7.群馬県嬭恋村：天明浅間山噴火による犠牲者の供養祭

- 行事の概要：1783年浅間山噴火の土石なだれにより、鎌原村民570名のうち477名が犠牲となったことをきっかけとして、鎌原地区で供養祭が毎年8月5日に行われている。最近では、2023年に「浅間押し240周年追悼式」が行われている。
- 日時：2023年12月15日、場所：嬭恋村地域交流センター、対象：嬭恋郷土資料館 友の会・会長、浅間山ジオパーク推進協議会・専門員

【継続理由】 教訓を伝えるという義務感だけでは長く続かないのではないか。肩肘を張っていない(当たり前のこととして)。鎌原地区の風土(共助の意識・力が強い)。観光資源になっている(観光客、メディアに取り上げられる)。地域の活性化にも貢献。浅間山に対して悪いイメージを持っていない(恩恵も感じている)。念仏講・奉仕会は、人が集まってきて情報交換をする場にもなっている。



8.千葉県銚子市：「式年銚子大神幸祭」

- 行事の概要：「式年銚子大神幸祭」は、**1102年**、銚子・高見浦の**津波**を鎮めるため、堀河天皇が勅命を下し、銚子への御神幸祭が1102年に初めて斎行。東大社(東庄町)、雷神社(旭市)、豊玉姫神社(香取市)の三社の神輿が銚子に渡御。第1～9回までは毎年行われたが、第10回からは**20年ごと**に行われている。
 - 日時：2023年12月19日、場所：東大社、対象：禰宜
- 【継続理由】 自然(海)に対する畏怖が最も大きいのではないかと。小規模の神事を2年ごとに行っている(東大社・桜井神幸祭「桜井浜のお浜降り」、お神輿のみ、芸能なし)。芸能を見物・参加できる**楽しみ**(娯楽が少ない時代だった)。祭に関わりたい人が多かったのでは。
- 【次回予定】 次回は2030年に実施する予定のため、2025年から準備を始める予定。



9.愛知県田原市：江崎邦助巡查夫妻の慰霊に関する行事(1)

- 行事の概要：1886年に流行したコレラの防疫活動の際、愛知県警豊橋署田原分署の江崎邦助巡查(25歳)がコレラに感染し6月23日に殉職し、看病にあたっていた妻じう(19歳)も感染し6月26日に亡くなった。田原警察署による慰霊墓参(毎年6月23日)、江崎巡查夫妻偉績顕彰会(事務局：田原市社会福祉協議会)による追悼法要、田原市立衣笠小学校(6年生の児童)による江崎巡查夫妻の功績を題材にした演劇の上演が行われている。
- 日時：2024年1月19日
 - ①場所：田原市社会福祉協議会、対象：職員
 - ②場所：田原警察署、対象：警務課・巡查部長
 - ③場所：田原市立衣笠小学校、対象：教員2名



9.愛知県田原市：江崎邦助巡査夫妻の慰霊に関する行事(2)

【継続理由】

- **田原市社会福祉協議会**：江崎巡査が公務員(警察官)であり、その組織(田原警察署)が現在も続いているため。田原署が毎年墓参、新聞記事でも取り上げられる。衣笠小学校の劇も続いているため。
- **田原警察署**：警察官としての誇り・使命感から引き継いでいきたいと考えている。
- **田原市立衣笠小学校**：地元警察での法要や地域で偉績顕彰会があるなど、地域で伝えていく下地があるためと考えられる。また、近隣の小学校でも地域の偉人を伝える学校劇(田原市立田原中部小学校で1927年から続く「(渡辺)華山劇」)があり、その学校から分かれて開校した本校でも学校劇を作り、伝統にしていこうとする意識が高かったため。田原警察署でも、署員に対して江崎巡査の殉職にまつわるエピソードを伝える機会が、行事として定着しており、警察組織として「授業」に協力いただいている。

10.富山県滑川市本江地区：「転地講」

- 行事の概要：本江の集落(郷川左岸)は洪水被害を受けやすく、**1835年**の郷川の**氾濫**によって耕地が荒廃した。その後、宝田宗兵衛の尽力により、集落48軒が転居できたことに感謝するための「転地講」(毎年7月27日)が1842年から始められた。
 - 日時：2024年3月12日、場所：本江公民館、対象：本江町内会の会長
- 【中断・途絶】ない。その他の講(婦人講、青年講、老人講など)はやめてしまったが、**転地講だけは続けなければ**との思いがある。
- 【継続理由】度重なる**氾濫の記憶**(今後は、その記憶も薄れていくかもしれないが)。
- 【次回予定】ある。ただし、コロナ禍のため行事の段取りを忘れ気味のため、もし分からなければ、地区内の年寄りに聞きに行く予定。

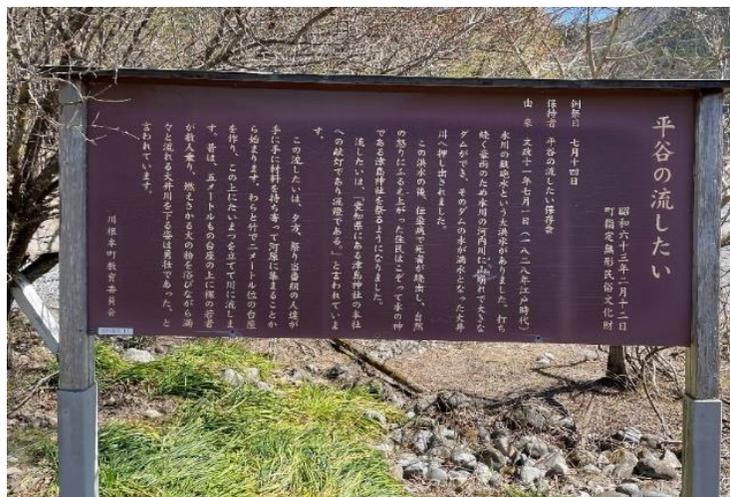


11.静岡県川根本町平谷地区：「平谷の流し焚(たい)」

- 行事の概要：「平谷の流し焚(たい)」は、青竹と麦わらを束ねた上に松明を立てて大井川へ流す行事で、毎年7月14日に行われる。**1828年**の大井川で**大洪水**が生じた際、疫病の犠牲者の霊を慰めるため、愛知県の津島神社に流灯をささげたのが始まりとされる。
- 日時：2024年3月18日、場所：川根本町役場、対象：瀬平区・区長、川根本町教育委員会社会教育課・職員

【継続理由】 農業(川根茶)を主体とした生業をしてきた地域性から、住民感情として、自然や災害への敬意、畏怖(畏敬)の念が根付いており、それが続けさせる原点となってきた。

【困っていること】 世代が交代しており「畏敬の念」が薄れてきている。高齢化と少子化(地元で学校が無くなった)が参加者を減少させている。



5. 考察

周年行事の継続要因

- 「周年行事が長く継続している理由」に対する回答を整理した結果、周年行事が長く継続する要因として、「① 日常化の工夫」、「② ハードとソフトの組み合わせ」、「③ 恒久的な団体・組織」、「④ 他団体・組織との連携」、「⑤ 自然に対する畏敬の念」、「⑥ 主催者の熱意・リーダーシップ」、「⑦ 行事の観光資源・メディア化」、「⑧ 娯楽・交流の機会」に分類できた。

① 日常化の工夫

② ハードとソフトの
組み合わせ

③ 恒久的な団
体・組織

④ 他団体・組織と
の連携

⑤ 自然に対する
畏敬の念

⑥ 主催者の熱
意・リーダーシップ

⑦ 行事の観光資
源・メディア化

⑧ 娯楽・交流の
機会

① 日常化の工夫

- **千葉県長生村**(本興寺)：本堂内に津波犠牲者の大位牌が安置されており、追善供養が毎日行われていた。 **A**
- **福井県勝山市**(女神川永代講)：犠牲者を供養する碑が村人の居住する場所から農作業を行う田畑に向かう道筋に設置されており、毎日拜むことが習慣化していた。
- **千葉県船橋市**(大仏追善供養)：大仏が通りの方向を向き、目に触れやすい参道の入口近くに設置されていた。
- **愛知県田原市**(田原警察署)：江崎巡査の功績を紹介する大きなアクリル画が警察署ロビーに展示されていた。 **B**
- **千葉県銚子市**(式年銚子大神幸祭)：20年に一度の行事(大神幸祭)の間に小規模な行事(2年に一度の「桜井神幸祭」)を行っている。 **C**



A



B



C

⇒ 自然災害・感染症流行といった滅多に発生しない事象に関する負の記憶を、日常化(高頻度化)するような工夫がなされていた。

② ハードとソフトの組み合わせ

- **福井県勝山市**(女神川永代講)：水害の言い伝えだけでなく、供養碑があったことを長く続く要因の一つとしてあげていた。 **A**
- **千葉県長生村**(本興寺)：大位牌が本堂内の目に触れる場所に安置されていることによって忘れることがない(寺以外の場所や屋外に設置されていた場合は忘れ去られていたかもしれない)と述べている。 **B**



A



B

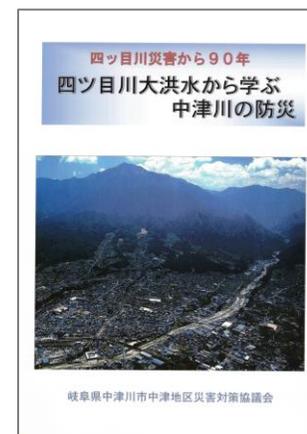
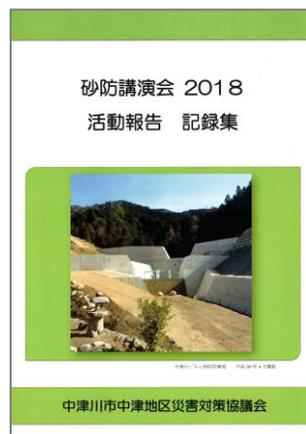
⇒ 自然災害・感染症流行の負の記憶を長きにわたり継承していくためには、ハード(石碑など)だけでも、また、ソフト(言い伝え、行事など)だけでも十分ではなく、ハードとソフトの両方を組み合わせることが有効

③ 恒久的な団体・組織

- 警察(田原警察署による慰霊墓参)、漁業協同組合(船橋市漁業協同組合による大仏追善供養)など、恒久的な団体・組織が行事の主催者であることが長く継続する要因の一つとして挙げられていた。
 - 恒久的な団体・組織の一つと考えられる「学校」については、衣笠小学校(愛知県田原市)においても、毎年の恒例行事として、江崎巡査に関する演劇が上演されていた。
 - しかし、同じ「学校」であっても、「平谷の流し焚」に関しては、平谷地区付近の中川根小学校の児童が約20年前から行事に参加していたが、少子化の影響を受けて同校が令和4年に廃校となり、離れた場所の小学校に統合されたため、今後の児童の参加は期待できないとのことであった。
- ⇒ 恒久的な団体・組織が存続する限りは、周年行事も継続される可能性はあるものの、今後の少子化・人口減少の影響によって団体・組織の消滅・解散とともに行事が途絶えることが予想される。

④ 他団体・組織との連携

- **岐阜県中津川市**(四ツ目川災害)：中津地区災害対策協議会を発足させるとともに、同協議会に関係する団体・組織から人的・経済的な支援を受けていた。A
- **愛知県田原市**：衣笠小学校の児童が田原警察署を訪問してロビーのアクリル画を見学する一方で、田原警察署の署員が衣笠小学校に出向いて授業を行っていた。
- **千葉県銚子市**(式年銚子大神幸祭)：3つの神社の協力体制のもと神輿が銚子に向けて運ばれ、その道中に設置された関所ごとに地域住民が奉納芸能を披露するといった協力も得ながら行われていた。



A

⇒ 1つの団体・組織だけで周年行事を行うよりも、多くの団体・組織との連携・協力体制を築いて行事に取り組むことが長く継続する要因の一つとなっていると考えられる。

⑤ 自然に対する畏敬の念

- 農業や漁業を生業としている地域を中心として、「自然に対する畏敬の念」があげられていた。
 - ✓ **静岡県川根本町**(川根茶の生産)による「平谷の流し焚」
 - ✓ **千葉県船橋市** 船橋市漁業協同組合(漁業)による「大仏追善供養」
- **富山県立山町**西大森地区、**群馬県嬬恋村**鎌原地区、**富山県滑川市**本江地区では、生活する場の近くに自然の脅威(河川、火山)があるが、その一方で、これらの自然から恩恵も受けているとの意見もあがっていた。

⇒ これらの地域では、生活の場と仕事(農業、漁業など)の場が近接していることから、**自然の脅威と恩恵の両面を実体験として感じやすい**ことが、行事が長く続けられる要因になっていたものと推察される。 ※近年サラリーマン化が進行し、生活の場と仕事の場が離れているケースが増えており、今後、これらの地域において周年行事が途絶える可能性が危惧される。

⑥ 主催者の熱意・リーダーシップ

- **福井県勝山市**(女神川水害永代講)：歴代の庄屋(区長)のリーダーシップを挙げていた。
- **岐阜県中津川市**(四ツ目川災害)：行事の主催者である中津地区災害対策協議会の前・会長の熱意を挙げていた。

⇒ 行事を主催する団体・組織における特定の人物の熱意・リーダーシップが、行事を長く続ける要因の一つになっているケースもみられた。 ※その人物の熱意・リーダーシップを次の世代へとうまく継承できるかどうか、周年行事を継続していく上で大きく影響するものと考えられる。

⑦ 行事の観光資源・メディア化

- 群馬県嬭恋村鎌原地区：災害遺構を見るために観光客が訪れたり、周年行事がメディアで取り上げられたりする。
- 愛知県田原市：田原警察署による慰霊墓参が新聞記事で毎年のように取り上げられる。A



- 千葉県船橋市 船橋市漁業協同組合(大仏追善供養)：「ごはんを大仏につける所作がありますが、これが奇異にうつるためか見学する部外者(一般者)がおり、供養行事というより観光的な側面を感じる」

⇒ 周年行事の観光資源化に対してやや否定的な印象を持つ場合もあることに留意する必要がある。

⑧ 娯楽・交流の機会

- 千葉県銚子市(式年銚子大神幸祭)：「芸能を見物・参加できる楽しみ(娯楽が少ない時代だった)」、「銚子の人も楽しみにしていたのではないか」との考えが述べられた。／静岡県川根本町(平谷の流し焚)：「若い女性たちを喜ばせようと、平谷の男性らは張り切って、大きい「焚」を作ったり、火の粉を浴びながら勇壮な姿を見せたりしようとした。当時、最大のレクリエーション(楽しみ)の一つでもあった」と述べられている。
- 群馬県嬭恋村：「念仏講、奉仕会は、人が集まってきて情報交換をする場にもなっている」／富山県滑川市：「転地講に参加すると、以前は子どもたちにお菓子を配っていたが、最近では参加する子どもが少なくなった」**A**



A

⇒ 慰霊・供養といった位置づけでの行事としてだけでなく、当該行事に娯楽・交流に関する要素が加わることが、周年行事を長く続ける要因の一つと言えそうである。

6. 結論

結論(1)

- 本研究では、自然災害・感染症流行を起源とする周年行事が長く継続して実施される要因を明らかにすることを目的として、関東・東北・中部地方の行事を対象として、質問紙調査、文献調査、聞き取り調査を行った。
- **質問紙調査**に関しては、東北地方、関東地方、中部地方の市区町村教育委員会(857団体)の文化財保護担当部署を対象として質問紙を郵送し、515団体からの回答が得られた。100年以上にわたり続けられている周年行事の有無について尋ねた結果、「ある」が24%(123団体)であった。
- **文献調査**に関して、東日本地区の周年行事について、国立国会図書館、都道府県・市町村の公立図書館を通じて文献複写による取り寄せを行ったところ、自然災害を起源とする行事に関しては、地震、津波、洪水、噴火、火災を起源する行事の存在を確認できた。また、感染症流行を起源とする行事としては、防疫活動中に亡くなった者を慰霊するための行事や悪疫退散を祈願するために始められた行事の存在を確認できた。

結論(2)

- **聞き取り調査**に関しては、自然災害・感染症流行の発生年がある程度明らかな行事のうち、概ね100年以上にわたり続けられている行事として、**11地域の周年行事**(1.千葉県長生村本興寺、2.福井県勝山市猪野口地区、3.静岡県伊東市玖須美区、4.富山県立山町西大森地区、5.岐阜県中津川市、6.千葉県船橋市、7.群馬県嬬恋村、8.千葉県銚子市、9.愛知県田原市、10.富山県滑川市本江地区、11.静岡県川根本町平谷地区)の関係者への聞き取り調査を実施した。
- 以上の結果に基づいて、**周年行事が長く継続する要因**は、「日常化の工夫」、「ハードとソフトの組み合わせ」、「恒久的な団体・組織」、「他団体・組織との連携」、「自然に対する畏敬の念」、「主催者の熱意・リーダーシップ」、「行事の観光資源・メディア化」、「娯楽・交流の機会」であることを明らかにした。